

北軽井沢で車のフロントウィンドウに一匹のガが静かに休んでいました。翅を屋根のようにたたんだ姿は淡いクリーム色を基調とし、黒い斑点が規則よく散りばめられています。左右の前翅中央には、静止すると「への字」のように見える印象的な文様が現れ、頭部の両脇には小さな赤色部ものぞいています。斑紋の特徴から、この個体はスジモンヒトリ（筋紋火取 *Spilarctia seriatopunctata*）と同定しました。チョウ目ヒトリガ科に属する種類で、初夏から夏にかけて林縁や草地、灯火の周辺などで見られる身近なガの一種です。

「筋紋火取」という和名は、翅に見られる筋状の黒い紋と、「火取（ひとり）」という古くからの呼び名に由来します。「火取」は夜間に灯火へ飛来する性質に結び付けられた名称と考えられており、「ヒトリガ科」の名にも受け継がれています。昼間はこの写真のように建物の壁や樹木、自動車などで静かに休息することが多く、翅を閉じた姿は落ち葉や樹皮にもよく溶け込みます。控えめな色彩ながら、細部を観察すると繊細で美しい模様をもつガであることが分かります。

チョウとガはいずれもチョウ目に属しますが、触角の形には違いが見られることが多く、チョウは先端が丸くふくらんだ「こん棒状」の触角をもちます。一方、ガはこの個体のように先細りの糸状や、種類によっては櫛の歯のような「櫛状」の触角を備えています。また、日本に生息するチョウは約250種であるのに対し、ガは6,000種以上が知られ、その種類数は圧倒的です。夜の昆虫という印象が強いガですが、昼間に出会える種類も少なくなく、一匹をじっくり観察するだけでも、その多様性と奥深い魅力に気付かされます。

(2026年6月下旬／北軽井沢)

